

第9回企画展

# 「海軍」が来た

「呉浦」から呉鎮守府へ



期間／平成20年4月2日(水)～5月12日(月)

■料金／一般(大学生以上)…300円(700円)／高校生…200円(400円)／小・中学生…100円(200円)

※( )内は常設展示とのセット料金

■開館時間／開館時間:午前9時～午後6時 休館日／火曜日(祝日の場合は翌日) ゴールデンウィーク期間中は無休

電車・バスでお越しの場合…JR呉駅から徒歩5分

または 呉市営バス宝町中央循環線「ゆめタウン・大和ミュージアム前」下車徒歩1分

アクセス

お車でお越しの場合…クリアライン呉ICから約5分 山陽自動車道・西条ICから約1時間

フェリーでお越しの場合…呉中央桟橋から徒歩1分

■お問合せ

〒737-0029 広島県呉市宝町5-20

TEL 0823-25-3017

<http://yamato.kure-city.jp/>



呉市海事歴史科学館

 大和ミュージアム

# ごあいさつ

江戸時代、安芸国にあった宮原・荘山田・和庄の3ヵ村を合わせ「呉浦」と呼ばれた地域は、明治19(1886)年、第二海軍区鎮守府建設地に決定し、海軍用地となります。このとき「呉浦」住民の多くは新たな生活の地を求めて移転を余儀なくされました。そして、明治22(1889)年、「呉鎮守府」が開庁すると、呉は「軍港都市」として激動の時代の表舞台へと登場することになるのです。

本企画展では、海軍進出前、流通の拠点であった「呉浦」の様子を振り返り、鎮守府の地に呉が選出される経緯や、鎮守府建設工事によって「呉」が劇的に変貌していく過程を、残された絵図や写真などの資料をもとに「海軍」の視線と「呉浦」住民の視線とで再現いたしました。

また、大和ミュージアムの周辺には、「呉鎮守府」建設当時をうかがうことができる歴史的スポットが数多く残されています。ご来場いただきました皆様には、本企画展を「海軍がやってきた頃の呉」再発見のきっかけとしていただければ幸いです。

呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)

館長 戸高一成



表紙写真(上段)

## 宮原村塔之岡山之図 明治13年 青盛文書

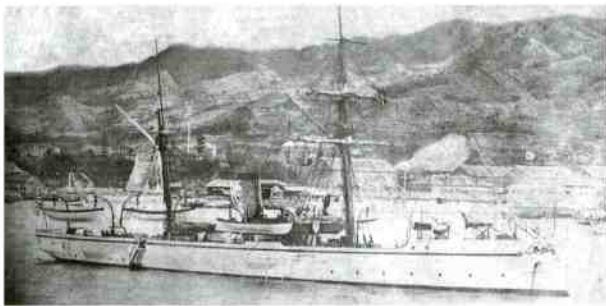
第二海軍区鎮守府が置かれる前、明治13年(1880)頃の「呉浦」「呉町」を物語る図。正面の丘が「塔之岡山」、右側の坂道を登ると宮原村戸長であった青盛敬篤の屋敷「月波楼」がありました。海軍用予定地となって塔之丘の青盛家屋敷や墓はすべて移転し、ここ「塔之丘」に呉鎮守府庁舎が建てられました。この図は、現在の海上自衛隊呉地方総監部付近にあたります。



表紙写真(中段)

## 北西(両城方面)から見た「呉浦」遠景 明治19年頃

両城方面(呉の北西部)から「呉浦」の全景を撮影した写真。みわたすかぎりの田園風景が広がる呉鎮守府開庁前の呉を撮影した貴重な1枚。呉町船入り(写真右)には船も見えず、中央の庄山田村大新開の境川河口が掘り進んでいる様子から、すでに鎮守府建設工事が始まった明治20(1887)年頃とも考えられます。矢印の位置は、現在の大和ミュージアムがある付近です。



表紙写真(下段)

## 呉鎮守府に配属された砲艦「赤城」(初代) 明治24~27年頃

明治23(1890)年、呉鎮守府に最初に配属された艦艇13隻のうち1隻。明治23年8月23日に神戸の小野浜造船所で竣工した614トンの国産鋼鉄艦で、12センチ砲4門、最大速度は10ノット(時速18.52km)でした。写真は、明治24~27(1891~94)年の撮影と考えられ、「赤城」背後には鎮守府開庁後間もない頃の庁舎や倉庫群をみることができます。

### 交通案内図



### 周辺図



### アクセス

- 電車・バス/JR呉駅から徒歩約5分・呉市営バス宝町中央循環線「ゆめタウン・大和ミュージアム前」下車徒歩約1分
- 自家用車/クレアライン呉ICから約5分
- フェリー/呉中央桟橋から徒歩約1分

呉市海事歴史科学館  
**大和ミュージアム**